



とうふう 東風

矢巾町立矢巾東小学校
校報 14号
H27.10.13
文責 校長 菅原

よく考えれば...

なく暗いイメージあったんだけど、村上さんがとても明るくお話をしてくれて楽しかった」と。全盲の村上さんという矢巾町在住の方をお迎えしての体験学習。

この「4年生のキャップハンディ体験」は、障害（これからはあえて「障(がい)」を使用します）のある人の思いや関わりを学ぶ広い意味での「命の授業」です。村上さんは言います。

「目は見えないけれど、よく考えれば大抵のことはできるようになる。時間はかかるけれど、その分、できるようになるととても嬉しい」と。

とが多いと思いました。

2014年1月20日、日本は「障害者権利条約」という国際条約を批准しましたこれに伴い、障害者基本法や障害者差別解消法などをはじめ、学校教育法の改訂により特別支援教育の充実が進められています。

インクルーシブとは、「障害があろうとなかろうと、あらゆる子どもが地域の学校に包み込まれ、必要な援助を提供されながら教育を受けること」をいいます。

したがって

特別支援教育は特別な教育ではなく、児童一人ひとりの個性・特性に応じて、可能な限り能力を引き出し、生きる力をつける支援をすることです。それは障害の有無に関係ありません。

そのために

- ・成長には個人差があること
- ・違いを認めること
- ・関わり方（環境）を変えてみる
- ・できないことよりもできることに目を向けること
- ・相手の困り感に寄り添うこと ...

このように考えると、この考え方は人間教育全てに当てはまる理念であると考えます。村上さんのお言葉の中にあるように、「時間はかかるけれど、よく考えてできるように努力すること。」今回、とても大切なことを教わりました。



学び合おう

礼節を重んじ 姿勢よく